

産業分野の事業紹介

1. 事業の背景

(株)日立ソリューションズ東日本(以下、HSEと記す)は産業分野の製造業を中心に、意思決定に関するソリューションを幅広く提供している。

製造業は長らく厳しい競争を強いられてきたが、アベノミクス効果が着実に浸透しており、景気の回復に伴い、生産は拡大している。また、中小企業についても業況改善の兆しがある。¹⁾

製造業の生産拠点は汎用品を中心に海外移転が進んでいるが、高付加価値品の開発・生産は国内拠点、汎用品の開発・生産は海外拠点で実施するというように、国際分業の流れが進んでいる。²⁾

その一方で、グローバル競争力の低下、技術力による差別化の限界、社会構造の変化などの背景によって、一部の企業では単に製品やシステムを提供するだけでなく、モノにサービスを付加して提供するビジネスモデルへの転換を進めている。今後そのような企業では、企業内・組織内のデータの利活用、さらにはそれらを企業外・組織外のデータと突き合わせることによって、新たな知見を得ていく取り組みが増えると予想される。³⁾

このような環境下で企業が経営資源を有効活用し、生産性を高めるためには、国内外のバリューチェーン（開

発・製造・販売・サービスといった付加価値を生む一連の流れ）の変化の可視化と、限られた経営資源の機動的な組み換えを可能にするインフラの整備が必要である。ITは企業の経営資源を効率化するだけでなく、効果を最大化するためのものとして位置づけられている。⁴⁾

2. 事業の方向性

HSEは企業のバリューチェーンの中で、特にサプライチェーンマネジメント（SCM）、エンジニアリングチェーンマネジメント（ECM）、ビジネスアナリティクス（BA）の3分野で、計画、可視化、分析、意思決定支援のソリューションを提供している。各分野の主なソリューション・製品を図1に示す。

今後はこれらの分野に引き続き注力するとともに、近年の新たな潮流であるクラウド、ビッグデータ、グローバル、スマートデバイスに対応しながら、意思決定支援技術の高度化を図り、ソリューションの適用領域を拡大する。

3. 今後の事業展開戦略

前章で述べた3分野のソリューション・製品について、今後の事業展開戦略は次のとおりである。

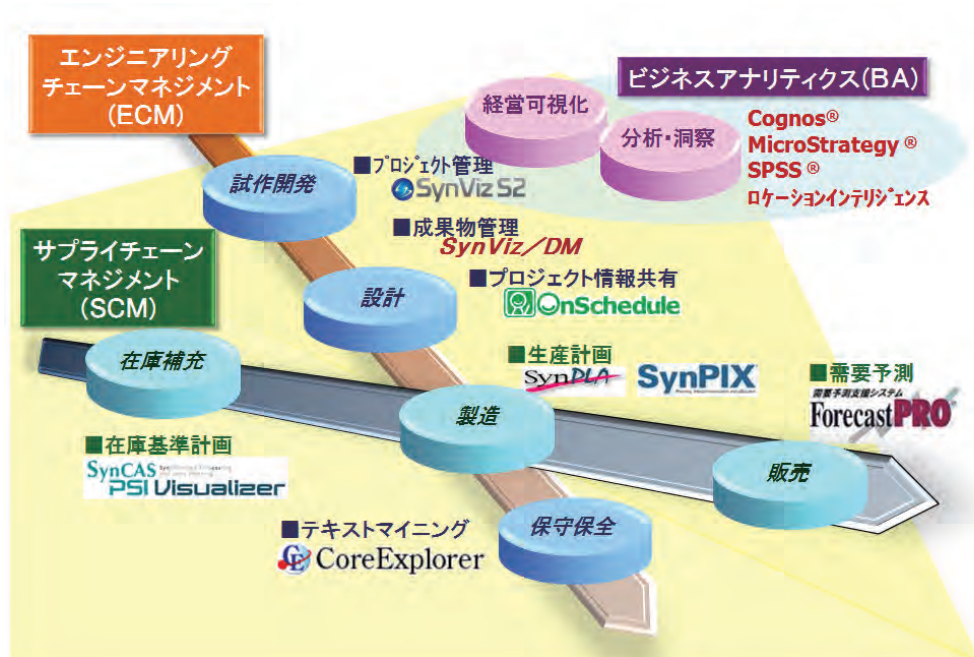


図1 産業分野の主なソリューション・製品

3.1 SCM分野

得意分野であるハイテク企業やプロセス産業（化学）を中心に、現場への定着化と可視化を強化する。主な製品毎の戦略を以下に示す。

- 業務指向を強く打ち出し、在庫基準計画・監視の専用ツールとして導入しやすい製品を展開する（SynCAS PSIシリーズ）
- ターゲット領域を絞り、費用対効果面、導入コストや運用面でのメリットや自社開発を生かしたきめ細かな提案で、生産計画の他社製品と差別化する（SynPIX）
- 他のスケジューラ製品（多機能・高価・カスタマイズ費用大）と比較して必要最小限の標準機能を提供し、コンパクトな導入を実現する（SynPLA）

3.2 ECM分野

ECM分野では、設計・開発・製造工程の状況把握ソリューションや、表現の自由度の高い工程表・プロジェクト管理プラットフォーム製品を提供している。製品毎の戦略は以下のとおりである。

- バリューチェーンの変化とグローバル展開が顕著な自動車業界を中心に実績を積み重ね、他社製品との違いを打ち出す。（SynViz S2, SynViz/DM）
- テキスト解析部分のAPI化により他製品との連携を一層強化する。（CoreExplorer）

尚、これらの製品は汎用性が高く、製造業のECM分野以外にも、様々な分野で導入されている。

3.3 BA分野

BA 分野についても、製造業に限らず公共・金融・サービスなど様々な業界に対して製品（Cognos, SPSS, MicroStrategy など）やソリューション（ロケーションインテリジェンス）の提供、システム開発、データウェアハウス（DWH）の構築を行っている。DWH 構築では、情報分析基盤の構成要素の選定基準や構築作業体系を明確化することで、企業内外に蓄積されたデータを活用したい企業に対して、長期のデータ活用や分析業務の継続性を考慮した情報基盤の構築を行っている。⁵⁾

今後は、大量データの DWH・分析の用途で使用する DWH アプライアンス製品（ある目的に特化して、すぐに使える家電製品のようなコンセプトで作られた製品）を BA 分野のソリューションラインアップに加えることで、ビッグデータ活用で新たな知見や価値の創出を期待する企業のニーズに応えていく。

3.4 ソリューションの融合

HSE では製造業企業のバリューチェーンの変化を可視化し、かつグローバル展開やビッグデータ活用といった要望に応えるために、前述した 3 つの得意分野のソリューションの融合に取り組んでいる。以下にその取り組みの一部である、SCM 分野と BA 分野のソリューション融合の例を説明する。

現在、SCM 分野で HSE は在庫起点での可視化・評価を行う製品 SynCAS PSI Visualizer を提供している。本製品については販売部門の利用者が多く、評価指標のレポート機能の充実や管理者向けの経営観点でのサマリーレポート出力の要望が多い。そこで SynCAS PSI Visualizer と BA 分野のビジネスインテリジェンス製品である Cognos Express を連携することで、管理レベル（販売マネージャ、経営者など）毎の切り口での集計やレポート化を実現し、生産（P）、販売（S）、在庫（I）の全体概況の可視化を強化していく。

また、グローバル展開や国際分業が進んでいる製造業企業では、管理する SKU（Stock Keeping Unit、在庫管理最小単位）が数十万から数百万点に及んでおり、大量データに対する処理の高速化が必要となっている。今後、高速データベースアプライアンス製品に対応する SynCAS PSI Visualizer のエディションを新たに展開することで、グローバルに展開するサプライチェーンの状況把握やビッグデータ対応の要望に応えていく。

以上のように今後も各分野で培った技術・ノウハウ・人財を融合し、企業の経営資源の効率化と最大化、そして顧客企業のビジネス価値創出のための事業を推進する。

参考文献

- 1) 経済産業省、厚生労働省、文部科学省：2014 年版ものづくり白書 第 1 部第 1 章第 1 節「我が国製造業の足下の状況認識」p.3-6 (2014.6)
- 2) 経済産業省、厚生労働省、文部科学省：2014 年版ものづくり白書 第 1 部第 1 章第 2 節「我が国製造業の競争力強化に向けて」p.42 (2014.6)
- 3) 総務省：ICT コトづくり検討会議報告書 第 4 章第 3 節「本格的なデータ活用社会の到来」p.165 (2013.7)
- 4) 経済産業省、厚生労働省、文部科学省：2014 年版ものづくり白書 第 1 部第 1 章第 3 節「事業環境が変化する中での「稼ぐ力」向上」p.163 (2014.6)
- 5) 太田、他：データウェアハウス構築におけるプラクティカルアプローチ、日立ソリューションズ東日本技報 第 19 号(2013.10)